

2 研究内容1 「子どもが社会とのかかわりを深める教材開発」について

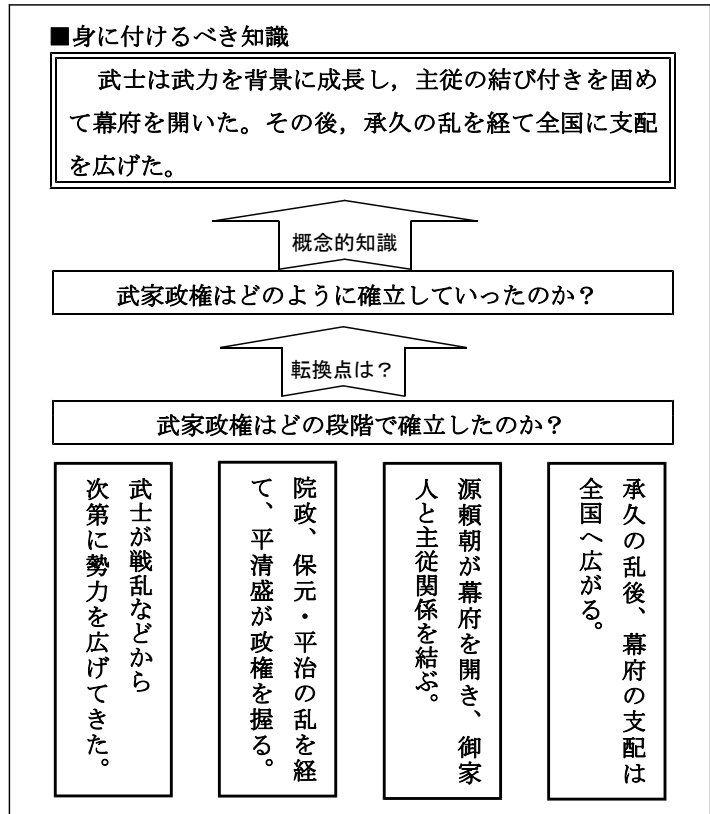
(1) 研究内容1-② 「小中7年間を見通した身に付けるべき知識・技能の明確化」

本ユニットで身に付けるべき概念的知識を「武士は武力を背景に成長し、主従の結び付きを固めて幕府を開いた。その後、承久の乱を経て全国に支配を広げた。」とする。

小学校の歴史学習において、平清盛や源義経の活躍などを通して、源氏が勝利を収めた様子、そして朝廷から認められた源頼朝が鎌倉に幕府を開き、征夷大將軍に任じられたことを通して、武士による政治が始まったことを学んでいる。

これらを踏まえ、武士が起こり、徐々に成長していく様子、そして承久の乱をきっかけに、幕府の支配を全国に広げていった様子をつなぎ合わせ、武家政権が確立していく過程を捉えさせたい。

そのために、必要となる基本要素として、以下の4点をおさえた。



- ・ 地方での警備や中央で武官をしていた武士が、都や地方で起きた戦乱などから次第に勢力を広げてきた。
- ・ 上皇による院政から保元・平治の乱を経て、平清盛が武力を背景に台頭し政権を握る。その後、源平の戦いで源氏が平氏を退け、勢力を強めた。
- ・ 源頼朝が東国に鎌倉幕府を開き、御家人と御恩と奉公の主従関係で結ばれた。
- ・ 承久の乱後、幕府の支配が全国に広がり、武家独自の御成敗式目を定め、武士は自信をもった。

これらの4つの基本要素をもとに、「武家政権はどの段階で確立したのか」について考察する。考察の方法は、武家政権が確立した転換点の前（Before）と後（After）の武士の様子や朝廷との関係の変化を捉えることである。



3 研究内容2「子どもが主体的・協働的に追究する学習展開」について

(1) 研究内容2-①「学習課題と向き合いながら、主体的に追究する単元構成」

本ユニットでは、武士が台頭し、武家政権が確立していく様子をつかませることを大きな目標と考えた。武士の成長が感じられる2枚の武士を描いた絵からそれらを予想させ、「武家政権はどのように確立していったのか」という学習課題を設定した。

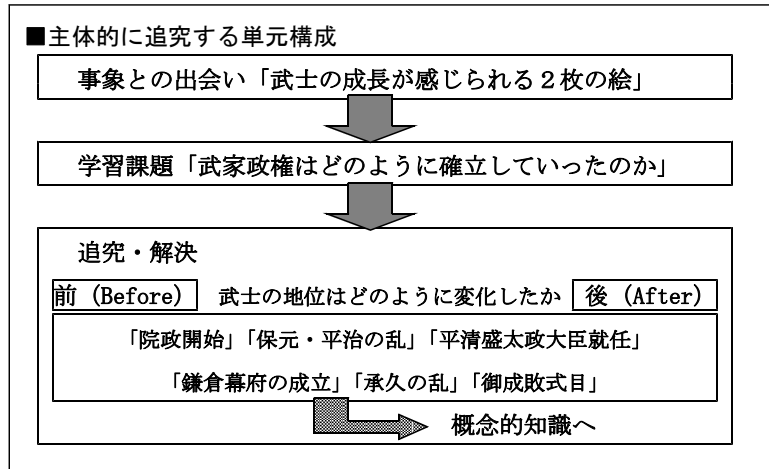
ユニットを通して、この課題に生徒が主体的に迫ることができるように、常に「前 (Before) と後 (After)」で考えさせるという手法をとった。

これは、例えば『承久の乱』の前 (Before) と後 (After) では、武士の地位がどのように変化したか など歴史的な事象の前と後の武士の様子をそれぞれ取り出して各時間整理させ、1枚のプリントに蓄積させるというものである。このような活動を取り入れた理由は次の3点である。

- ・武士の地位の変化が明確になるため、歴史的な事象の理解がより深まる。
- ・同じ視点で様々な出来事を見ていくため、時代の流れを大きくとらえるのに有効である。
- ・生徒の気付きや考えを把握しやすく、教師の評価や助言を加えることで、概念的知識の獲得に導くことができる。

「前 (Before) と後 (After)」で整理し蓄積させる学習を「院政開始」「保元・平治の乱」「平清盛太政大臣就任」「鎌倉幕府の成立」「承久の乱」「御成敗式目」の6つの場面で行う。ユニット内での学習は1枚のプリントにまとめられており、生徒はそれを本時の学習課題の解決に活用する。

ユニット全体で積み上げてきたものを紡いで、生徒が主体的に時代を大きく捉える活動につなげていきたい。

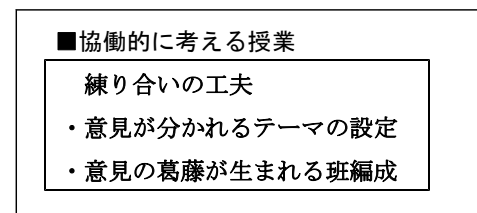


(2) 研究内容2-②「社会的な事象の意味や特色、相互の関連、概念について協働的に考える授業構成」

練り合いのテーマを「武家政権がどの段階で確立したのか、理由を明確にして班で意見をまとめよう」とした。それは、「平清盛が武士として初めて太政大臣に就任したとき」「源頼朝が独自の政権である鎌倉幕府を開いたとき」「幕府の支配が全国に拡大するきっかけとなる承久の乱に幕府が勝利したとき」の3つの意見に分かれることを想定したからである。

この問いは事前に各個人で考えさせ、それを持ち寄って本時の練り合いにつなげる。事前にこれらの個人の意見を教師側で把握することで、意見の葛藤が生まれるような班編成を心掛けた。多様な意見に触れ、自らの考えを深めさせたいという意図でそのような練り合いを計画した。

3つの意見のうち、どれかが正解というわけではない。それぞれが武家政権が確立していく過程をとらえる上で重要な要素であり、他者の発表を比較・関連付けていくことで、生徒が最終的に武家政権確立の様子を捉えるという概念的知識へとつなげることができると考えた。



4 ユニットの目標

(1) 武家政権が確立していった経緯を資料から適切にまとめ、武士の支配が次第に全国に広がったことを理解させる。

【知識・技能】

(2) 武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まっていく様子を資料などから多面的・多角的に考察させ、表現させる。

【思考・判断・表現】

(3) 武士の地位が次第に変化し、武家政権が確立する様子を意欲的に捉えようとする態度を育てる。

【主体的に学習に取り組む態度】

5 ユニットの評価規準



知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
武家政権が確立していった経緯を、年表や各種資料から読み取り適切にまとめ、武士が主従の結び付きや武力を背景に力を付けて幕府を開き、全国に支配を広げたことを理解している。	武士が台頭して武家政権が成立し、武士の支配が次第に全国に広まり、武家社会が発展していったという時代の流れを、幕府と朝廷の関係、土地制度の変化などから多面的・多角的に考察し、適切に表現している。	武家政権が確立するまでの歴史的事象について、ワークシートに自分の考えをまとめ、他者との意見交換で自らの考えを深めようとするなど、武士の地位が大きく変化していったことを意欲的に追究しようとしている。

6 知識の構造図

小学校での既習知識		
第6学年「4 武士の世の中へ(東京書籍『新しい社会』)」 ・平清盛を中心とした平氏が政治を行うようになったが、源義経らの源氏に滅ぼされた。 ・源頼朝は朝廷から認められ、鎌倉幕府を開き、征夷大將軍に任じられた。そして武士たちとご恩と奉公の関係で結ばれた。		
基礎的知識	説明的知識	概念的知識へつなげる指導の重点
武士 武士団 源氏 平氏 奥州藤原氏 年貢	地方での警備や中央の武官をしていた武士が、都や地方で起きた戦乱などから次第に勢力を広げてきた。	朝廷とつながり、社会の中での地位を高めながら武士団を形成し、勢力を広げていった過程に着目させる。
上皇 院政 保元の乱 平治の乱 平清盛 源頼朝 源義経	上皇による院政から、保元・平治の乱を経て武士の平清盛が政権を握り、源平の戦いで源氏が勢力を強めた。	武士は武力を背景に上皇や天皇との関わりを強め、朝廷の高い官位を得ることによって平清盛が武士の最初の政権を成立させたことに着目させる。
守護 地頭 鎌倉幕府 鎌倉時代 御家人 御恩 奉公 執権	源頼朝が東国に鎌倉幕府を開き、御家人とは御恩と奉公の主従関係で結ばれた。	鎌倉幕府は朝廷の仕組みとは別に、土地を仲立ちとした武家独自の政権であることに着目させる。しかし、それはまだ全国を支配する政権ではなかったことを当時の幕府が支配した地域の資料などでつかませる。
承久の乱 六波羅探題 御成敗式目	承久の乱により、幕府の支配が全国に広がった。	承久の乱前後で鎌倉幕府が支配した地域の変化に着目させ、朝廷と幕府の力関係がどのように変わったかを考えさせる。
弓馬の道 二毛作 定期市 下地中分	武士は武芸に励み、一族で団結し、弓馬の道などの武士らしい心構えを育ててきた。地頭に任命された武士は、次第に土地に対する権利を強めていった。	下地中分によって土地の半分が地頭に与えられたことなどにより、土地に対する地頭の権利が次第に領主と同じように強いものになっていったことに着目させる。
概念的知識		
武士は武力を背景に成長し、主従の結びつきを固めて幕府を開いた。その後、承久の乱を経て全国に支配を広げた。		

※白抜き文字は小学校の学習を踏まえたもの

7 指導計画

段階	時	学習活動	評価規準と評価方法											
事象との出会い・学習課題の設定	①	1 武士の2枚の図『春日権現験記絵』・『神護寺三像』から、武士の様子を捉え、どうして武士が成長していったのかを予想する。 (ユニットの学習に対する興味や関心を高める場面)	主 武士の様子の違いを発見しようと絵を比較したり、意見を交換したりするなど、今後の武士の地位の変化を進んでとらえようとしている。 【行動観察】											
		<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>資料1</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>資料2</p> </div> </div>												
		2 「武家政権はどのように確立していったのか」という学習課題を知り、武士の視点を通して鎌倉時代について学習していくことを知る。												
ユニットを通じた課題「武家政権はどのように確立していったのか」														
追究・解決	②	3 武士が地位を向上させるきっかけとなる出来事の前 (Before) と後 (After) の武士の地位の変化を整理し、ワークシートに記入していくことを知る。 (課題解決への方策を知る場面)	知技 地方での警備や中央の武官をしていた武士が、都や地方で起きた戦乱などから次第に勢力を広げてきた過程を理解している。 【ワークシート】 思 平氏が政権を獲得していったことを撰閣政治との共通点や違いを明らかにしながら考察している。 【ワークシート】											
		4 武士が次第に地位を向上させたことを、都や地方で起きた戦乱の様子などから理解する。 (武士が朝廷とのつながりから地位を高め武士団を形成し、勢力を拡大する過程を理解する場面)												
		③ 5 「院政開始」「保元・平治の乱」 ④ 「平清盛太政大臣就任」の各出来事の前の様子とその後の変化の考察から、平氏が政権を獲得していく過程を捉える。 (武士の中から朝廷で政治の実権を握る人物が出たことを捉える場面)												
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">Before</th> <th style="text-align: center;">After</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>院政開始</td> <td>中央の貴族などに荘園を寄進して保護を受けた</td> <td>上皇の警護や僧兵を撃退するために上皇に登用された</td> </tr> <tr> <td>保元・平治の乱</td> <td>上皇の警護や僧兵を撃退するために上皇に登用された</td> <td>中央で認められ、政治で大きな力をもつようになった</td> </tr> <tr> <td>平清盛太政大臣就任</td> <td>中央で認められ、政治で大きな力をもつようになった</td> <td>武士で初めて高い官位につき、政治の実権を握った</td> </tr> </tbody> </table>		Before	After	院政開始	中央の貴族などに荘園を寄進して保護を受けた	上皇の警護や僧兵を撃退するために上皇に登用された	保元・平治の乱	上皇の警護や僧兵を撃退するために上皇に登用された	中央で認められ、政治で大きな力をもつようになった	平清盛太政大臣就任	中央で認められ、政治で大きな力をもつようになった	武士で初めて高い官位につき、政治の実権を握った
	Before	After												
院政開始	中央の貴族などに荘園を寄進して保護を受けた	上皇の警護や僧兵を撃退するために上皇に登用された												
保元・平治の乱	上皇の警護や僧兵を撃退するために上皇に登用された	中央で認められ、政治で大きな力をもつようになった												
平清盛太政大臣就任	中央で認められ、政治で大きな力をもつようになった	武士で初めて高い官位につき、政治の実権を握った												

段階	時	学習活動	評価規準と評価方法												
追究・解決	⑤ ⑥ ⑦ ⑧	<p>6 武士（幕府）と朝廷との関係の変化を「鎌倉幕府の成立」「承久の乱」「御成敗式目」の各出来事の前と後の様子の違いから捉える。 （武士が独自の仕組みをもった政権を確立し全国に支配を広げたことを理解する場面）</p> <table border="1" data-bbox="271 526 1109 1041"> <thead> <tr> <th></th> <th>Before</th> <th>After</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鎌倉幕府の成立</td> <td>武士で初めて高い官位につき、政治の実権を握った</td> <td>将軍と御家人の間で主従関係を結び、武士が全国を支配する基礎を固め、朝廷による支配をゆるがした</td> </tr> <tr> <td>承久の乱</td> <td>将軍と御家人の間で主従関係を結び、武士が全国を支配する基礎を固め、朝廷による支配をゆるがした</td> <td>武家政権としての幕府の力は強まり、全国支配が確立した</td> </tr> <tr> <td>御成敗式目</td> <td>武家政権としての幕府の力は強まり、全国支配が確立した</td> <td>武士が、朝廷の律令とは別に、独自の法を制定し自信を持った</td> </tr> </tbody> </table> <p>7 絵巻物や文書資料を通して、鎌倉時代の武士の生活の様子や前時までに調べた武士の地位の変化を確かめる。 （武士の地位の変化を資料を通して確認する場面）</p> <p>8 「武家政権が確立した転換点」となった出来事を6つの場面から選び、その選択の理由をワークシートにまとめる。 （武家政権の転換点を根拠をもって決定し、自分なりの予想を立てる場面）</p>		Before	After	鎌倉幕府の成立	武士で初めて高い官位につき、政治の実権を握った	将軍と御家人の間で主従関係を結び、武士が全国を支配する基礎を固め、朝廷による支配をゆるがした	承久の乱	将軍と御家人の間で主従関係を結び、武士が全国を支配する基礎を固め、朝廷による支配をゆるがした	武家政権としての幕府の力は強まり、全国支配が確立した	御成敗式目	武家政権としての幕府の力は強まり、全国支配が確立した	武士が、朝廷の律令とは別に、独自の法を制定し自信を持った	<p>知技 源頼朝が鎌倉幕府を開き、御家人と主従関係を結び、承久の乱をきっかけに、幕府の支配が全国に広がった過程を資料などから読み取り理解している。 【ワークシート】</p> <p>文書資料と「守護・地頭の配置図」を関連付けて必要な情報を明らかにする技能を高める。</p> <p>知技 地頭に任命された武士が、次第に土地に対する権利を強めていった過程を資料などから読み取り理解している。【ワークシート】</p> <p>絵画資料から当時の土地利用の状況を読み取る技能を高める。</p> <p>知技 これまでの学習を生かして、選択の理由を明確に記入している。【ワークシート】</p>
	Before	After													
鎌倉幕府の成立	武士で初めて高い官位につき、政治の実権を握った	将軍と御家人の間で主従関係を結び、武士が全国を支配する基礎を固め、朝廷による支配をゆるがした													
承久の乱	将軍と御家人の間で主従関係を結び、武士が全国を支配する基礎を固め、朝廷による支配をゆるがした	武家政権としての幕府の力は強まり、全国支配が確立した													
御成敗式目	武家政権としての幕府の力は強まり、全国支配が確立した	武士が、朝廷の律令とは別に、独自の法を制定し自信を持った													
	⑨ （本時）	<p>9 個人の考えをもち寄り、「武家政権が確立した転換点」とその理由を班や学級全体で交流する中で、武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が全国に広まったことを理解する。</p> <div data-bbox="263 1624 1125 1803" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>【概念的知識】</p> <p>武士は武力を背景に成長し、主従の結びつきを固めて幕府を開いた。その後、承久の乱を経て全国に支配を広げた。</p> </div>	<p>知技 武家政権確立の転換点を探る活動を通して、武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が全国に広まる過程を説明している。 【ワークシート・発表】</p>												
発展	⑩	<p>10 鎌倉時代の文化や仏教の特色を整理し、平安時代の文化「国風文化」と「鎌倉文化」を比較することで、武士勢力拡大の影響が現れていることをつかむ。 （武士勢力の影響が政治以外にも現れていることに目を向ける場面）</p>	<p>知技 鎌倉時代の仏教が人々の間に広まったことを、教えの特色や社会の動きと関連付けて理解している。 【ワークシート・発表】</p>												


8 本時の授業構成

(1) 目標

武家政権確立の転換点を探る活動を通して、武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が全国に広まる過程を説明することができる。 【知識・技能】

(2) 展開

過程	学習活動	教師のかかわり	学習評価												
つかむ	1 学習課題を理解する。 2 前時に個人でまとめた、武家政権が確立した転換点とその理由について、ワークシートを振り返る。	1 今までの学習をもとに学習課題を解決していくことの見通しをもたせる。 2 ユニットを通してまとめたワークシートで自分の主張を確認させる。													
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 学習課題「武家政権はどのように確立していったのか」 </div>															
深める	3 転換点を班で1つに絞り、その前 (Before) と後 (After) の武士の様子を一文でまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><期待したい生徒の考え></p> <p>「平清盛太政大臣就任」 …ここで初めて武士が政治を行えるようになり、政権が確立したと思う。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>Before</th> <th>After</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中央で認められ、政治で大きな力をもつようになった。</td> <td>武家政権が成立し、幕府が開かれ、武士の支配が広がった。</td> </tr> </tbody> </table> <p>「鎌倉幕府の成立」 …ここで初めて武士の独自の政権 (幕府) ができ、確立したと思う。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>Before</th> <th>After</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>武士が朝廷に利用され、活躍する機会が増え、武士が成長した。</td> <td>源頼朝が武士独自の政権 (幕府) をつくって主従の結びつきを強め、武士の支配が広がった。</td> </tr> </tbody> </table> <p>「承久の乱」 …戦いに勝った幕府の力は強まり、全国支配が確立されたと思う。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>Before</th> <th>After</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>武士が成長し独自の政権をつくって主従の結びつきを強めた。</td> <td>武家政権としての幕府の力は強まり、全国へ支配が広がった。</td> </tr> </tbody> </table> </div>	Before	After	中央で認められ、政治で大きな力をもつようになった。	武家政権が成立し、幕府が開かれ、武士の支配が広がった。	Before	After	武士が朝廷に利用され、活躍する機会が増え、武士が成長した。	源頼朝が武士独自の政権 (幕府) をつくって主従の結びつきを強め、武士の支配が広がった。	Before	After	武士が成長し独自の政権をつくって主従の結びつきを強めた。	武家政権としての幕府の力は強まり、全国へ支配が広がった。	3 班長を中心に、武家政権はどの段階で確立したのか、理由を明確にしながらまとめさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><練り合いの目的></p> <p>武家政権が確立した転換点とその理由を考えさせることで、武士が成長して独自の政権 (幕府) を成立させ、全国に支配を広げ様子をとらえさせる。</p> <p><練り合いの手順></p> <p>①個人の意見を班で交流し、1つにまとめさせる。 ※3人×7 + 4人×2計9班 ※意見の葛藤が生まれるような班編成</p> <p>②班で武家政権が確立したと思われる転換点の前 (Before) と後 (After) の武士の様子を一文でまとめさせる。</p> <p>③ホワイトボードに記入し、黒板に掲示させる。</p> </div>	
Before	After														
中央で認められ、政治で大きな力をもつようになった。	武家政権が成立し、幕府が開かれ、武士の支配が広がった。														
Before	After														
武士が朝廷に利用され、活躍する機会が増え、武士が成長した。	源頼朝が武士独自の政権 (幕府) をつくって主従の結びつきを強め、武士の支配が広がった。														
Before	After														
武士が成長し独自の政権をつくって主従の結びつきを強めた。	武家政権としての幕府の力は強まり、全国へ支配が広がった。														

過程	学習活動	教師のかかわり	学習評価
深める	4 各班が考えを発表する中で、自分たちの班の考えと比較しながら聞く。	4 他の班との共通点や相違点に着目させながら、発表を聞かせる。	
	5 各班の前 (Before) と後 (After) の共通点が「武士の成長」と「独自の政権 (幕府)」「支配の広がり」であることを理解する。	5 各班の共通点を全体で確認させながら、武士が成長し、武家政権が確立していった様子を大観させる。	
考える	6 学習を振り返り、課題に対する答えを個人で考える。	6 学習を振り返らせ、ホワイトボードや教師の板書などを参考に考えさせる。	【知技】 武家政権確立の転換点を探る活動を通して、武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が全国に広まる過程を説明している。 【ワークシート・発表】
	【概念的知識獲得の場面】 武士は武力を背景に成長し、主従の結びつきを固めて幕府を開いた。その後、承久の乱を経て全国に支配を広げた。		
広げる	7 時代が進み、武家政権がどのように変化していくのかを予想する。	7 『後醍醐天皇像』を提示し、次の単元への関心をもたせる。 <div style="text-align: center;">  </div> 資料3	

(3) 評価の具体

◎十分満足できる状況 (A)

「武士は主従の結びつきや武力を背景に力を付けて台頭し、幕府を開いた。

その後、承久の乱を経て全国に支配を広げ、幕府と朝廷の二重支配から幕府支配の優位が確立した。」

○おおむね満足できる状況 (B)

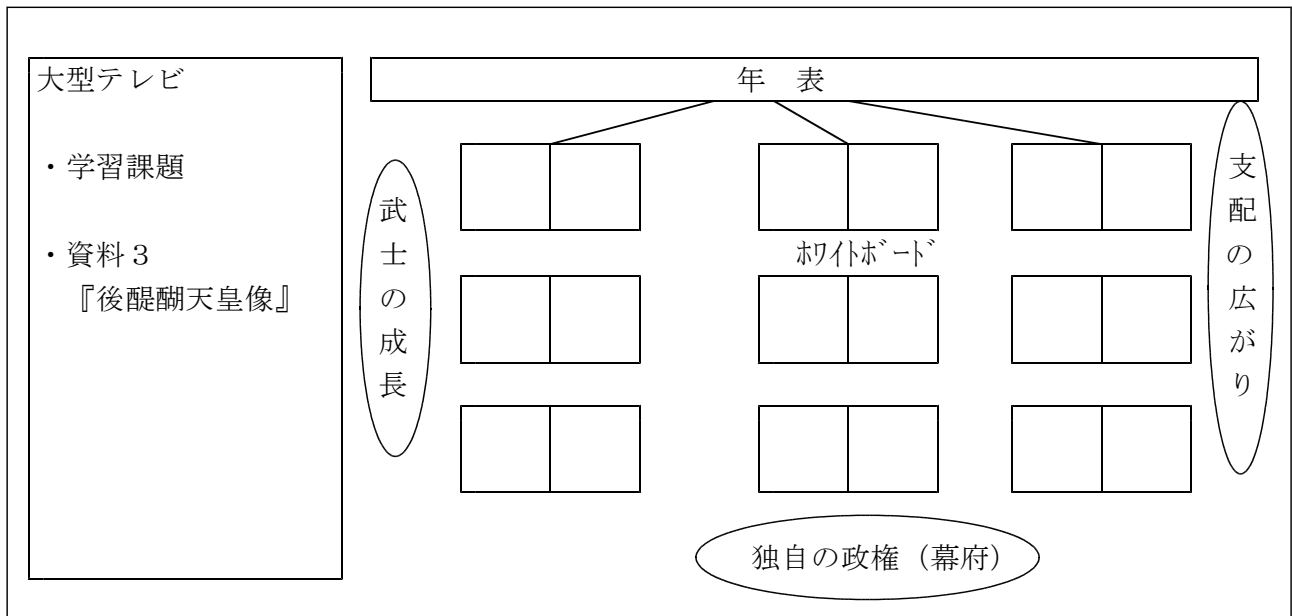
「武士は主従の結びつきや武力を背景に力を付けて台頭し、幕府を開いた。

その後、承久の乱を経て全国に支配を広げた。」

△努力を要すると判断される生徒に対する具体的な手立て

武士の地位の変化を読み取れる資料を確認させ、着眼点や時代背景などの説明を補足しながら理解させる。

(4) 板書計画

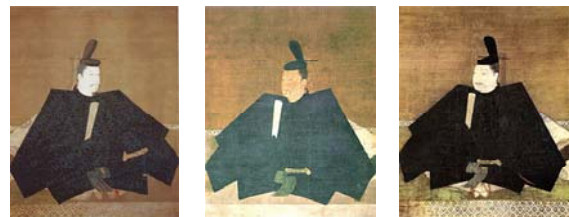


(5) 活用する資料

資料1 『春日権現験記絵』



資料2 『神護寺三像』



資料3 『後醍醐天皇像（清浄光寺蔵）』



<資料の提示・活用などの工夫点>

ユニットの導入で、資料1の上皇を警護している武士の図と資料2の束帯姿で威儀を正す武士の姿とを比較させ、武士の地位の変化を予想させることで、意欲的に課題解決に取り組ませる。ユニットの最後の武家政権がどのように変化するかを予想する場面で資料3を提示する。武家政権が更に成長すると予想する生徒の思考を揺さぶり、次單元への関心をもたせる。

9 教材開発に関する参考文献・参考ホームページ、取材先など

□参考文献・ホームページ

- ・中央公論新社『院政と平氏、鎌倉政権』
- ・鎌倉観光ポータルサイト『鎌倉の歴史』
- ・教学研究社『社会中学辞典』
- ・明治図書『社会科固有の授業理論－30の提言』

